令和５年度　江戸川区立西葛西小学校　学校関係者評価　最終評価報告書

学校教育目標	○考える子 ○心豊かな子（重点目標） ○たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○児童が明るく元気に学び合える学校　○保護者が安心して子供を任せられる安全な学校 ○地域に開かれ、保護者、地域から信頼される学校　○教職員が笑顔で共育・協働し、自分の力を発揮できる学校
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞算数での習熟度別少人数授業、放課後補習教室、一人一台タブレット端末の活用等で、「学習することが楽しい」と答える児童が85%を超えた。 感染症対策を講じながら、「わくわくすもう大会」など学校の特色である行事の再開や、「わくわくタイム」など体力維持向上に向けた教育活動を実施することができた。 ＜課題＞新学習指導要領で示された3つの資質・能力の育成に向けた授業改善。 学校関係者アンケートやホームページの充実による、自校の取り組みの積極的な発信。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞　・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・朝学習（東京ベーシックドリル含む）、放課後補習教室を年70回以上実施 ・3～6年生の習熟度別少人数算数授業の実施 ・一人一台タブレット端末を活用した授業の１日１回以上の実施 ・江戸川っ子study week!の学期１回の実施 ・全学年で授業研究・公開・協議会の実施	・東京ベーシックドリルで80%以上の児童が、正答率80%以上達成 ・児童アンケート「学習することが楽しい」85%以上	A	A	アンケート結果「学校の学習は楽しい」は１回目91%だったが2日目は89%と現状維持。タブレット端末を使った学習については、１回目、2回目共に90%の児童が「分かりやすい」と回答している。ミライシードの「ドリルパーク」の活用、「オクリンク」による提出物評価等、教職員へのICT研修を実施しながら今後も授業での活用を推進していく。ベーシックドリルの正答率は80%の達成は2年生のみ。3年生37%、4年生48%、5年生59%、6年生28%と各学年でばらつきが見られる。	A	・ICTの活用が進んでいて児童も意欲的に取り組んでいるのではないか。保護者も機能などをもっと知りたい。	・学校では年間3回教員対象にICT研修を実施　タブレット活用の研修を計画的に行っていく。 ・朝学習では、ベーシックドリルを実施し、正答率が低かった問題をその日のうちに解説している。次年度に向けて校内委員会を活用し、ベーシックドリルの苦手分野の分析や、ミライシードの「ドリルパーク」の活用を進めていく。
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・全クラス学期3回以上の図書館活用 ・読書科研修の充実 ・学校司書の活用 ・学校図書館の環境整備 ・国語科の校内研究と関連させた読書活動の充実	・全クラス国語科、読書科、社会科、総合的な学習の時間等で年間10時間以上の調べ学習実施 ・児童アンケート「進んで読書をする」80%以上	B	B	学校図書館は１学期は閉鎖、バーコードの準備が完了後、10月中旬から開館。児童は家庭から本を持参し読書活動に勤しんだ。児童アンケートでは１回目が77%、2回目が73%が「本を読んでいる」と回答。同、保護者の結果は１回目76%、2回目70%。年間10時間の読書科調べ学習を西葛西図書館団体貸出レファレンス等を利用しさらに充実させていく。	B	・保護者も読書をするようPTAや地域としても促していきたい。新聞を定期購読していない家庭も多い。	・学校では、週2．3回の朝読書の時間を設定しているため、読書に取り組んでいる様子が伺える。今年度は保護者による本の読み聞かせも復活したので、家庭の協力を仰ぎながら読書への啓発活動に努め、教職員に向けても団体貸出レファレンスを利用するよう推進していく。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・わくわくタイム（中休みを使った運動遊び）を年18回実施 ・短なわ週間、持久走週間を年１回実施 ・晴れた中休みは外遊び実施 ・運動を得意としない児童への十分な配慮 ・特色ある教育施設である土俵を活用したわくわくすもう教室やわくわくすもう大会の実施	・児童アンケート「外遊びをよくしている」80%以上 ・体力テスト合計点各学年で１項目以上前年度比増	A	A	「休み時間に外で遊んでいる」児童は１回目85%（昨年度より15%増加）2回目は80%。保護者アンケートも91%。１学期に「わくわくすもう大会」「わくわくすもう教室」を開催し、コロナ禍前の方法で実施することができた。反復横跳び、上体起こし等、正しい方法で体力テストの練習をすることにより、体力テストの計測数値が前年度比5項目で向上（各学年平均）。2学期は、短なわチャレンジ・長なわチャレンジ、3学期は持久走タイムを設定し体力向上に努めた。	A	・体力は社会人になっても必要である。ある程度練習すれば、児童は上達するので、練習の機会を今後も多く設定してほしい。 ・体力と学力は関連している。本校は学区域が狭く通学時間も短い。勉強も大切だが体力をつけることも大切。身に付けたものを発揮できる大人になってほしい。	・本校の体力テストの結果は、東京都の平均より若干下である。2学期以降の運動会、短なわチャレンジ、長なわチャレンジ、持久走などの取り組みを通して、今後も運動に親しむ機会を意図的に設定していく。投力向上のための運動を準備運動に取り入れる。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・学校2020レガシーの設定 ・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画の作成 ・特別支援教育の研修を学期１回実施 ・校内委員会を月１回実施 ・毎時間のエンカレッジルーム担当教員の設定	・出前授業を各学年年間3回以上実施 ・地域の保育所、幼稚園等との交流を１回以上実施 ・児童アンケート「友達を大切にしている」90%以上	B	A	・4月の個人面談で保護者と情報共有し、学校生活支援シート・個別指導計画を5月初旬までに作成した。 ・配慮が必要な児童を全職員で共有。夕会で周知し、エンカレッジルーム等での対応に活かした。 ・出前講座として、2年生が生活科「町探検」で地域人材をGTとして招聘。6年生3回、5年生１回、4年生2回、3年生2回と当初予定より多く実施できた。笑顔プロジェクトを12月に実施した。（和太鼓鑑賞）１月にイングリッシュ・キャラバン実施予定である。 ・児童アンケート「友達を大切にしている」１回目95%、2回目93%。	A	・「仲のいい」友達は大切にしているのではと感じる。全ての友達を大切にできるようになるとよりよい。 ・友達との関わりの中で、自分やクラスの目標を達成していこうとする取り組みを行い、調整力やまとめる力、リーダーシップなどの能力を保護者や教職員が関与しながら伸ばしていってほしい。	・道徳や学級活動の時間を活用し、様々な思いをもった人間が集まって学級を形成していることを理解できるようにしていく。 ・一人一人の個性やよさが認められ、それを発揮できる学級づくりを目指す。 ・経験年数が浅い教員へのOJT研修やフォローを継続的に行い、円滑な学級経営が行えるようにしていく。 ・2学期も出前授業の実施を計画中である。教育のねらいに適したものを選び、児童の理解を深めるために活用していく。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	・江戸川区子どもの権利条例の理解、教科内指導 ・生活指導連絡協議会の実施 ・キャリアパスポートの活用 ・いじめアンケートを年間3回実施 ・いじめ防止対策委員会の定期的開催 ・異年齢交流の場として月１回のたてわり班活動の実施	・Hyper-QUによる学級満足度要支援群の出現率10%以下 ・不登校児童の関係諸機関との連携100% ・いじめの早期発見、解消率100%	A	A	・不登校児童の関係諸機関との連携は100%達成した。SSW・SC。児童相談所等と連絡協議を実施。 ・Hyper-QUは2学期以降に分析結果が判明する。 ・6月「ふれあい月間」前に児童アンケートの結果を踏まえての聞き取りの仕方をOJTで実施。11月のふれあい月間の実施、2月も実施予定である。 ・いじめの早期発見、解消率100達成。	A	・授業で起きていることは共有されているが、すくすくや学童内のことは共有されているか。 ・子供を取り巻く様々な状況があるが。まずは家庭の教育力を上げていくことが大切。親子でのかかわりを大切にしてほしい。 ・解消率100%でも継続していくことが大切である。	・学童内のトラブルは学童で処理しているが、すくすくの先生と情報共有することはありうる。 ・不登校児童の関係諸機関との連携を今後も継続していく。不登校児童本人の特性に合った居場所づくりをすすめ、別室指導員の活用、エンカレッジルーム、学校サポート教室や共育プラザへの登校などを促す。 ・Hyper-QUの分析結果を2学期以降の学級経営・児童理解に活用していく。 ・いじめ、不登校の対応、研修を引き続き充実させていく。
地域に広く開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実	・学校ホームページの週3回以上の更新 ・学校公開の充実	・学校公開への参加率90%以上 ・保護者アンケート「教育活動の公開度」80%以上	A	A	・学校公開　5月参加率68%、わくわくすもう大会84%、9月学校公開（2日間）82%、運動会95%、音楽会90%。コロナ禍前の形で運動会や音楽会を実施でき参加率も9割を超えた。 ・保護者アンケート「教育活動の公開度」１回目95%、2回目95%。	A	・すもう大会及び学校公開を実施できてよかった。 ・学校応援団による巣箱作りは親子連れでにぎわっていた。	・5月の公開は3時間の設定にしたことで、保護者が参観授業を選択・調整できたと肯定的なアンケート結果だった。2学期以降の学校公開も同様に実施する予定である。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・全校統一された重点項目による評価実施 ・評価分析結果の公表	・学校関係者評価にてA評価を80%以上 ・保護者アンケートにて全項目の平均で肯定的な意見80%以上	B	B	・学力向上、休み時間の外遊び、教師が悩みに寄り添っている、学校からの発信、働き方改革については肯定的な意見が90%以上。 ・「すすんで読書」「エンカレッジルームでの指導等、個別に応じた指導」「学校評価を通じて学校の様子が分かる」については70%～80%。80%以下のものについては、具体的な取り組みを保護者に伝えていくなどの改善が必要。特に一番低い読書（70%）については保護者と連携して取り組む必要がある。	B	・保護者評価は一部分しか見えていないこともあるので、あまり気にしなくてよいと考える。 ・保護者の教育参画の機会を増やす。 ・ホームページ、tetoru、がくぷりの違いを明確にして伝えていく。	・学校評価で肯定的な評価が高かったものについては、現状を維持できるよう今後も推進していく。 ・評価者アンケートをHPで公開し、保護者への周知を図る。 ・個別応じた取り組みを、学校公開での授業で発信していく。
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革＞ 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学校経営支援を担う人材の導入 ・校務の精選と見直しの継続的実施 ・定時退勤の実施	・学校評価（教職員）での働き方改革推進に関する項目のA評価70%以上	B	A	・教職員A評価33%→27%　B評価66%→66% ・校務、学校行事等の洗い出し、要・不要を検討し働き方改革に繋げていく。ICTの活用、学校経営支援人材の活用。 ・月１回の定時退勤日を設定。	B	・学校によって校風が違う。先生たちの働き方にも差がある。維持して持ち上げていくためには、先生方の努力が必要。 ・教職員評価が下がったのが気になるが、評議員会の報告を聞いた限りでは今後は上向くと考える。	・tetoruでの配信による印刷業務の削減、teamsでの連絡事項配信、Formsによるアンケート集計等、今度もICTの活用を行い働き方改革を推進していく。 ・時数にゆとりができることにより、放課後の業務改善が期待できる。子供と向き合う時間の確保や授業力向上につなげる。